わたしのまちづくり

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。

学生団体 Paleix（パレックス）

今回は、多様な性のあり方を認め合う社会の実現を目指し、市との協働まちづくり活動補助事業の一環として、性的マイノリティに関心を持ってもらおうと、さまざまな啓発活動に取り組む学生団体Paleixさんにお話を伺いました。

情報課職員（以下「情」）：はじめに、Paleixについて教えてください。

Paleix（以下「P」）：Paleixは「誰もが自分らしく生きやすい社会」を目指し、LGBTQ＋の理解促進や支援活動に取り組んでいます。

主な活動の1つが「おはなし会」の開催です。「おはなし会」の目的は、LGBTQ＋当事者への居場所づくりや、非当事者の人にも、当事者と直接話す機会を設けることで、彼らが「普通」と変わらないということを実感してもらえたらいいなという願いを込めて企画しました。

他にも、「ぱれマガ」という冊子を発行し、市内の各施設へ配布したり、Paleixのインスタグラムからも随時配信する予定です。「ぱれマガ」では、パートナーシップ宣誓制度や同性婚についてなど、性的マイノリティに関する知識を、漫画やイラストなどを用いてわかりやすく紹介しています。これらの活動は、現在会員である6人の学生がそれぞれの得意分野を生かして運営しています。

情：LGBTQ＋とは、何を指す言葉ですか。

P：LGBTは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を組み合わせた言葉ですが、性のあり方は人の数だけ存在します。そこでLGBTに加え、自分の性のあり方がわからない「クエスチョニング」または「クィア」と、さらに定義しきれない性を表現する「＋」を加えてLGBTQ＋と表現されます。

情：それだけ多くの性的指向があるのですね。最近はメディアで自身の性的指向をオープンに話す人が増えていますが、普段の生活で意識する機会は少ないように感じます。LGBTQ＋に関心を持ったきっかけは何ですか。

P：地元では日常的に性的マイノリティをテーマにした講演会が開かれたり、学校で当事者と話す機会があったり、自分にとっては身近な存在だったんです。大学進学と同時に長久手に来た際、いかに地元が進んでいたのかを実感しました。そこで問題意識を持って活動していくうちに、想いを共有できる仲間が集まり、今に至ります。長久手市がパートナーシップ宣誓制度導入に向けて啓発団体を募集していたタイミングと重なったこともあり、これまでにさまざまな協働企画も行いました。私たちの活動の一つである「おはなし会」は、「名古屋あおぞら部」という、高校生、大学生を中心に、LGBTQ＋の周知活動を行っている団体の活動に参加したときにヒントを得ました。他の団体の先行事例なども参考にしながら、私たちも活動の幅を広げていきたいと思っています。

情：活動をしていくなかで大変だと感じることはありますか。

P：LGBTQ＋の人たちは自身が当事者だと公言していない場合が多いので、公の場だとなかなか参加者が集まらないんです。名古屋近辺では、LGBTQ＋向けのお店やイベントなども多数ありますが、その多くがお酒などを扱う大人向けの空間で、未成年は参加しづらいそうです。そういった誰にも相談できずに悩んでいる人たちが気軽に集まれる場を増やしていきたいですね。例えば、SNS上で中高生限定のコミュニティを作り、いずれは市内の飲食店でご飯を食べながらおしゃべりをするとか。まずは継続して居場所を作り続けることが大切だと思うので、今後も模索していきます。

情：それでは、市民のみなさんへメッセージをお願いします。

P：LGBTQ＋に対して偏見がないと答える人は多いです。しかしあなたの子どもが当事者だったらどうかと聞くと、みなさん考え込みます。つまり自分事としては受け止めていないということです。LGBTQ＋の当事者は、日常の何気ない場面で困難を抱えています。一人ひとりが自分事として捉えることで、無意識のうちに誰かを傷つける発言や行動をしていないかに気づけるはずです。

私たちは未来に向けて種蒔きをしている感覚で活動しています。「個」の力が積み重なれば、世の中を変える力があると信じています。この記事を読んでくださった人は、ふとした時にこのことを思い出してもらえるととても嬉しいです。Paleixは昨年秋に立ち上げた団体で、活動はまだ始まったばかりです。今後も積極的にLGBTQ＋の啓発に取り組んでいきたいと思っているので、私たちのこれからの活動に期待していただけたらと思います。

「ぱれマガ」冊子▲

Paleixのインスタグラムはこちら▶

「Weeklyながくて」でもPaleixの活動の様子を取材しています。…▶